環境保全のボランティア体験講座 2025　第 2 回講座レポート

第2回目の講座は 6 月 22 日（日）に大阪府豊能郡能勢町歌垣地区での開催です。
右の写真は出発前の集合の様子です。この日の受講生は 13 名。雨天対応のプログラムも準備していましたが晴れましたので、通常通りのスケジュールの確認と活動時用の班分けをした後、貸切バスに乗り込みました。

現地の駐車スペースにバスが停車後、少しだけ徒歩移動です。本日活動する予定の畑を横目で見つつ、今回お世話になる歌垣 SATOYAMA 楽舎へ向かいました。

左下の写真はお世話になる歌垣 SATOYAMA 楽舎の代表を務めておられる湯浅淳子さんご夫婦のご紹介をしている様子です。その後母屋に上がらせていただき、早速座学でのミニ講座がはじまりました。はじめに PowerPoint による、能勢町や活動地のご紹介がありました。

湯浅さんは 2017 年にこの地に移住され、築 250 年にもなる古民家を維持管理されています。保全地の主人公ともいえるキマダラルリツバメやハリブトシリアゲアリといった昆虫など、様々な内容について学ぶことができました。湯浅さんの説明に、メモを取る受講生の姿が数多く見受けられ、今年も熱心な受講生が多いと感じました。受講生からの「将来ビジョンはあるか。」という質問に、湯浅さんは「持続可能な活動ができるよう、跡継ぎを探している。」と答えておられました。

講義が終わり、午前中は農作業体験です。
農作業は今回の受講生全員が未経験だったようです。
下の写真はニンニクの収穫の方法を受講生に向けお伝えしている様子です。

こちらは黒豆の植え付けの説明をしている様子です。
畑の隅で育てられていた苗を定植していきます。

60cmの長さに揃えた棒を使って間隔を測り、手際よくシートに穴をあけて苗を植え付け、水をかけていきます。

3列の畝にそれぞれ等間隔で植えられているのが分かります。

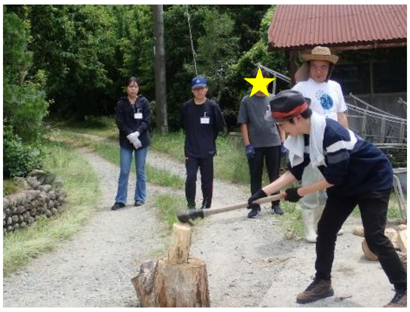
途中、炊事の手伝いで2名だけ畑仕事から抜けました。
左下の写真は、その二人がサラダ用のレタスを洗っている時に撮影しました。
その後、畑仕事から戻ってきた皆で、自分たちが食事をする机を組み立てている様子が右下の写真です。

お待ちかね昼食の時間です！羽釜の蓋をパカッと開けると中からは真っ白に炊き上がったふっくらご飯が☆大きなしゃもじでかき混ぜたあと、それぞれが持参したカレー用の器に受講生たちが盛っていきました。
サラダも自分たちで盛り付けていきました。

下の写真は盛り付けの一例。
サラダにかかっているドレッシングは自家製とのことで、とても美味しく頂きました。
鹿肉は赤身で飽きが来ないからバクバク食べられます☆
このお肉は、害獣駆除で捕獲された生きた鹿の解体からご準備頂いているものです。

スタッフの号令で全員そろってからいただきました。
様々な所属からの参加なので、年齢や所属の垣根を超えた会話で楽しい時間になりました。

食事の後は薪割り体験☆安全に注意して行いました。
1 発で割るにはなかなか難しく、体力も必要とされることから、この体験では昔の暮らしの大変さを知ることができました。



次は栗園に移動です。
出発してすぐ養蜂箱があり、その説明を受けました。
ここにいるのはセイヨウミツバチに比べて体が小さく黒っぽいニホンミツバチとのことで、入口から小さな蜂が多数出入りしているのが観察されました。

そして栗の木です。
小さなイガイガを備えた堅果が実りはじめているのが分かります。

途中、奇麗な水の流れる用水路があり多数の川魚が見られました（写真左）。
カワムツを中心とした種類で、河川上流部に生息、落下昆虫や水生昆虫などを捕食しています。
昔はこのような用水路が多く存在していたそうです。

左下の写真は、銀寄栗の基準となる標本木のあった栗園の紹介をされている様子で、右下の写真は、左奥の倉垣天満宮とその横の樹齢400年以上のイチョウを紹介している様子です。
受講生はこの地の歴史も勉強することができました。

左下の写真は、目的の栗園「歌垣銀寄栗の森」の入口に差し掛かった時の様子です。
右下の写真は、栗園内斜面にある湧水溜池ですが、近隣より移植した希少種がたくさん繁茂していました。

下の写真は栗の植樹についての説明の様子で、接ぎ木をしているというお話がありました。

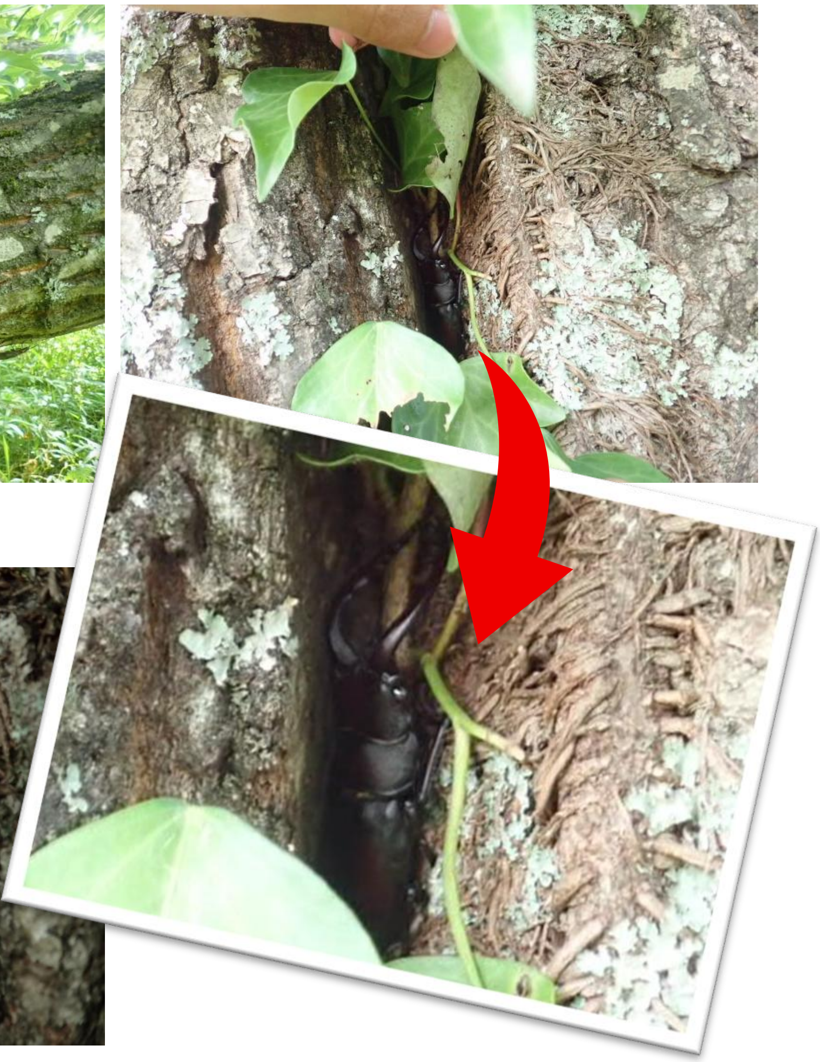
さて、暑いですが草刈りを30分だけ体験してもらうことに。
左の写真は手鎌の使い方を湯浅さんに教えてもらった後、膝くらいまである草を刈っている様子です。

その後少し休憩を挟み、近隣の栗園の視察に行きました。
隣接して4つの栗園が並んでいるようですが、下の写真はそれぞれの解説をされている様子です。

3月にスタッフは栗の植樹祭にきていましたが、その時に書いた苗木とネームプレートが見つかりました。

写真とは逆の太陽光に当たっている面は紫外線により文字が消えており、対策が必要と感じました。

また歌垣銀寄席栗の森に戻ってきたところ、スタッフがいつもクワガタのついている木にノコギリクワガタを見つけたので、受講生を呼びに行くと、数名が集まってきました。
下の写真は栗の木についていた個体をそのまま撮影した時のもの。
この木には合計7～8匹のノコギリクワガタがいました。
まだ樹液はほとんど出ていませんが、樹液の匂いに集まったノコギリクワガタ自身の匂いとの相乗効果により集まったものと思われます。



コクワガタもペアで見つかりました。

長歯形の少し大きめの個体にご満悦の様子。

キマダラルリツバメが飛翔する夕方の時間帯まで木陰で休んでいる様子です。

16時を回り、樹上の**キマダラルリツバメ**を探します。
左下の写真はヒカゲチョウで、右下の写真はウラギンヒョウモン。
なかなかお目当てのキマダラルリツバメの姿が見られません。

さて、一旦ふり返りの時間です。
アンケート用紙には皆さんの思いや感想を本当に沢山記入して頂けました。
数名に発表して共有いただきましたが、内容については後程少しご紹介いたします。

その後もキマダラルリツバメが飛ばないか注意深く樹上を観察していましたが、タイムアップ。
元来た道を帰りました。
例年と違って気候変動による影響からか、キマダラルリツバメが見られなかったのは残念ですが、①5 月の気温が低かったこと、②梅雨なのに雨が少なかったこと、③昼間と夜の温度差が激しかった時期があったこと、などが原因と考えられますが、遅れて例年通りの個体数がこのあと発生するのかも分かりません。
このことも、受講生には考えてもらうきっかけとなりました。

荷物を纏めて待機中に、鳥小屋から放鳥されたニワトリたちに受講生は興味津々でした。
昨年雛だった烏骨鶏は随分大きく成長していました。

皆で母屋を背景に記念撮影。
良い思い出になりました。

最後は湯浅さんに向かって皆でお礼を言いました。
誠にありがとうございました。

その後、受講生はバスで出発地点の長堀橋まで戻ってきて、解散としました。
6月なのにとにかく暑い1日でしたが皆さんお疲れ様でした。

さて、アンケートでの記述内容としては以下のようなものがありました。

・栗林を保全することで、生態系の多様さや文化、伝統を守ることになると知って、より環境保全は大切で良いことだなと感じました。自分も環境保全に関わりたいと強く思うようになりました。

・植物だけでなく虫も西日の当たりぐあいで出現するかどうかなどが変わってくることから、環境に合う動植物の保全を考える際、日当たりの関係も考える必要があると思いました。栗の木、里山の保全には草刈りや植林など多くの人々の協力や活動があってこそ成り立つことが分かりました。在来種の保全も人が植えたりして活動されていることや多くの人に自然のことを知ってもらうための活動(本をだしたり、ボランティアなど)があること、行っていることで、初めて知ることだらけでした。

・環境保全についての興味は大いに深まりました。今までは環境保全といっても、ふわっとしたものだったのですが、栗という１つの種に絞ってみても、獣害対策や接ぎ木など、詳細な活動があって、興味深いと思いました。

・本日の講座は環境保全というよりも、食料保全について関心が深まりました。農業があそこまできついとは思いませんでした。野生動物(シカかイノシシ)などとどのように共生していくべきなのか深く考えさせられました。

以上のような回答が複数寄せられました。
保全活動の意欲向上を伺える内容も見られたことから、今回の経験で、興味・関心から一歩進んだところまで動きがあることに事務局としては期待したいところです。